

1 研究主題

基礎・基本をいかした活用の工夫 ～算数的活動を通して～

2 研究の概要

(1) 第1回 師範授業と講演会 (講師: 燕市教育委員会 指導主事 平山 誠 様)

◇6月5日(水) 会場: 燕東小学校

◇師範授業「式の意味を考えよう」(4年)

◇講演会 「基礎基本をいかした活用の工夫」

<師範授業で見られた工夫>

- 「すっきり」「もやもや」と、自分の立場をはっきりさせ、困り感を出させることでかかわる必然性を生ませる。
- 課題1(共有課題)で、全員に解決の見通しをもたせる役割をもつ。課題2(ジャンプ課題)は、課題1を活用して解ける問題にする。

<講演会の概要>

- 新潟県の子どもは基礎・基本は定着しており、B問題が課題である。教科書の問題を用いて、B問題のような問い方に変えていくことが要である。
- 「覚えたこと」は忘れるが「考えたこと」は忘れない。よって、子どもが夢中になって考える良質な課題を作ることが必要である。また、1時間の授業を少なく教えて考えさせるようにデザインする。
- 思考力を高めるためには、言語活動の充実が不可欠である。出力する(書くこと・話すこと)場を充実させていく必要がある。脳の入力と出力のサイクルを回すことが大切。



(2) 第2回 研究授業 (指導者: 燕市教育委員会 指導主事 平山 誠 様)

◇12月4日(水) 会場: 燕西小学校

◇研究授業「よみとる算数」(4年)

◇授業者: 燕西小学校 川又 由香 教諭

<研究授業で見られた工夫>

- 課題1は資料を解釈する必要感をもたせる課題を提示し、解決させる。課題2ではその経験をもとに、「何かを手掛かりにすれば解けそうだ」という見通しをもたせる。
- 複数の資料から、課題を解決するために必要な資料を選ばせ、シールを貼らせる。(情報の選択) 選ばせた資料を根拠に、課題の答えやその理由を考えさせる。

<指導の概要>

- 学力の平均を上げるためには、下位層の引き上げがポイント。
- 知識や技能は、自分から必要感を感じてつかみ取ることが大切。「確かめたくなる状況」を生む問いと学び合いによって、子どもは考える愉しさを味わうことができる。

○算数における学びとは、「活用」である。知っていることを活用し、新しい知識を習得していく。

